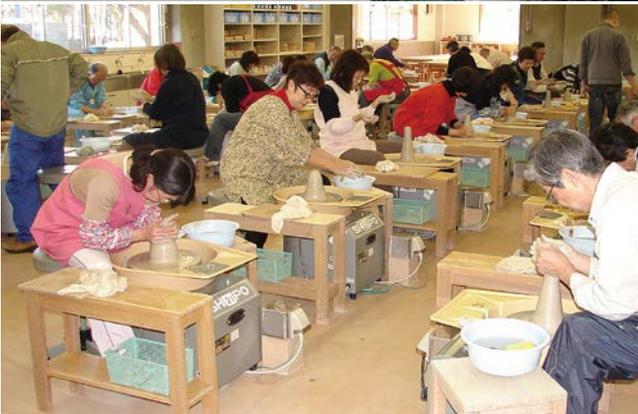


ふれあい名古屋

2024 12月
December



鯉城学園の様子

CONTENTS

市社協事業紹介	4
社協活動最前線 瑞穂区社会福祉協議会	5
想いをつなぐリレートーク	6
ほっとはあとコーナー	7
●旬ボラに行く！ NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト	
●きらっとボランティア・NPOらいぶ ハーレーサンタCLUB NAGOYA	
●なごやボラめぐり 北区 NPO法人名古屋ダルク	
からだに優しいいきいきレシピ / プレゼントつきクイズ	10
インフォメーション	11
ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介	12

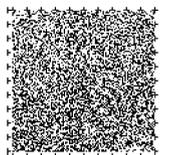
特集

福祉クローズアップ

60歳からの「学び」
「社会参加」「仲間づくり」、
地域に貢献
「名古屋市鯉城学園」



な～や



▲Uni-Voice
高齢者や目の不自由な方
のための音声コードです。



ひとに、ひたむきに。
社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会



60歳からの「学び」「社会参加」「仲間づくり」、 地域に貢献「名古屋市鯨城学園」

名古屋市鯨城学園は、高齢者の生きがいづくりと、地域の核となる人材の養成を目的に設立。市内在住の60歳以上の方のための2年制の学びの場です。開学は昭和61年、これまでに1万3976人の卒業生を輩出（令和6年3月31日現在）。名古屋市が設置し指定管理者として、名古屋市社会福祉協議会が運営しています。

鯨城学園の取り組み、卒業生で構成される鯨城会の活動について、お話を聞きました。

生きがいにつながる学びの場「鯨城学園」

健康で学習意欲があり、卒業後も地域活動に参加する意欲のある方には是非来ていただきたいと思っています。1コマ90分の専門講座と共通講座、行事、クラブ活動、クラス活動など多彩な活動があり、気の合う仲間と出会い、人生の楽しみや新たなつながりをつくることのできる学びの場となっています。

知的好奇心を刺激する「専門講座」

「暮らし」「国際」「健康と福祉」「音楽」「園芸」「陶芸」「美術」「歴史と文化」の8つの専門講座があります。

知的好奇心に応える講座を開講しています。「暮らし」ではSNSの活用法や特殊詐欺など、現代社会を生きていくうえで不可欠なテーマを組み込んでいます。また、三英傑にゆかりのある名古屋という土地柄もあり、「歴史と文化」にも人気があります。

幅広いテーマと講師陣が魅力「共通講座」

共通講座では、様々な分野への興味・関心が広がる講座を開講しています。名古屋城本丸御殿の障壁画の復元模写に携わってきた方や、にっぽんど真ん中祭りを立ち上げた方など、名古屋にゆかりのある講師陣の講座は人気。普段なかなか聞くことができない貴重なお話に、皆さん刺激を受けています。

クラブ活動や行事も盛ん

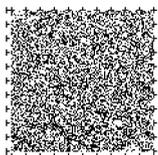
すべての学生が所属するクラブは、太極拳、囲碁、将棋、マジック、絵手紙、書道など、30以上と多彩です。新たな趣味や仲間に出会い、卒業後も同期会や鯨城会などで活動も続ける方も多くいらっしゃいます。また、体育祭や修学旅行、文化祭、ボランティア活動など学生協議会をはじめ学生が主体となって企画・運営に携わり、生き生きと取り組まれています。

学習と自主活動の経験を「社会参加」へ

魅力的な学びを提供するため、学期ごとにアンケートを実施しています。各クラスの「担任」である学務主任は、学生の意見や要望を反映しながらカリキュラムを更新するとともに、学生同士の交流を促進する役割も果たしています。学園での学びや自主活動の経験を、社会参加活動へと活かしてほしいと思います。そのためにも、社会の変化やニーズに応じた学びの機会を提供したいと考えています。

卒業後も広がる、交流・活動の場「鯨城会」

卒業後は、同窓会組織「鯨城会」を通じて多彩な活動を続けることができます。市内16区に「区鯨城会」が組織されており、学習会や作品展、ボランティアなど、地域に根ざした活動に積極的に取り組んでいます。16区フェスティバル・グラウンドゴルフ交歓会や文化祭などのイベントも多数開催され、卒業生同士の交流を深めています。



(左から) 中村事務長、小島さん、
小松さん、廣田副学長

※令和7年度入学生を募集します。
詳しくは11ページをご覧ください。

天白こじょう会（天白区）

平成3年設立。名古屋市16区の中で最後に設立され、会員数は148人。会長 小島明さん（32期生）

どのような活動に力を入れていますか？

作品展です。天白ではより多くの方に参加していただきたいという思いから、旅行など年間行事の中でものづくりを体験する機会を設け、そこで作った作品を出品してもらう試みを始めました。作品展の名称も「趣味の作品展」から「みんなの作品展」に改め、昨年は小原和紙と有松絞りを展示し、他区の方々からも高い評価をいただきました。今年は、皆さんで常滑焼、ちぎり絵、七宝焼きに挑戦し、その作品をお披露目する予定です。

天白区独自の活動があると聞きました。

天白区の歴史は古く、江戸時代に徳川家康の命で造られた街道や街並みなど、地域の発展の歴史を物語る貴重なスポットがいくつも残っています。そこで「自分たちの地域をもっと深く調べてみよう」と、天白区の史跡を散策する活動を年間行事に組み込んでいます。歴史好きが集まる地域のコミュニティとの共同企画も実施しており、地域との交流やつながりを深める機会になっています。

ボランティア活動では新たな試みをしているそうですね。

ボランティア活動はコロナ禍の影響により一時期下火になっていましたが、徐々に再開しています。昨年からは老人ホームでギターや太鼓の伴奏に合わせて、みんなで歌う企画をスタートしました。昨年・今年に入会したメンバーにはボランティアや福祉活動に興味がある人が多く、今後の活動にも積極的に参加してもらえると期待しています。



天白こじょう会のみなさん

花水木鯨城会（千種区）

平成3年設立。会員数は218人で、最高齢の会員は93歳。会長 小松憲次さん（32期生）

どのような活動に力を入れていますか？

ボランティア活動です。特に注力しているのが、千種区社協が実施するデイサービスへの支援です。1日平均3人のボランティアを派遣し、お茶出しや入浴後の髪の乾燥など、職員さんだけでは対応しきれない部分をサポートしています。

また、月に2～3回、千種区内の公園の清掃を行うほか、鯨城学園全体で行う堀川や鶴舞公園の清掃活動にも積極的に参加。年間延べ活動人員は2,200名程になります。常に感謝の心で活動することが、地域社会に貢献すると共に仲間との絆づくりにつながります。

クラブ活動も盛んと聞きました。

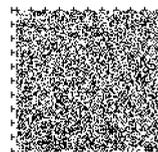
現在、13のクラブが活動しています。クラブ目当てに鯨城会に入会してくださる方も多いですよ。さらにクラブ活動での人とのつながりや、メンバーの話を聞いたことをきっかけにボランティアに参加するメンバーもいて、いい循環が生まれているように思います。

コーヒーサロンも大変好評だそうですね。

千種区社協の研修室を月2回お借りして、コーヒーサロンを運営しています。在宅サービスセンターの利用者へ提供するために始めましたが、近隣で評判となり地域の方もたくさん集まるようになりました。コーヒー1杯50円という価格はもちろん、楽器演奏やマジックといったクラブ活動で培った特技のお披露目も大好評です。こうした地域貢献活動は、言うまでもなく会員一人一人のやりがい、生きがいにもつながっています。私たちの活動内容は年4回の四季報「花水木だより」にまとめ、千種区社協の窓口などに置いていただいていますので、ぜひご覧ください。



大好評のコーヒーサロン



＼わたしたちは名古屋市社会福祉協議会です／

—「誰もが安心して笑顔で暮らす福祉のまち名古屋」の実現のために—

地域住民同士の助け合いをサポートします



- 地域支えあい事業
- ふれあい・いきいきサロン活動
- 地域福祉推進協議会（推進協）の支援

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、住民が主体のまちづくりを支援しています。

生活の困りごとの解決を支援します



- いきいき支援センター
- 仕事・暮らし自立サポートセンター
- 住まいサポートなごや

本人やご家族などから生活の課題についてのご相談を受け、解決に向けて関係機関と協力しながら支援します。

ボランティア活動・福祉教育を推進します



- ボランティアセンター事業

ボランティアやNPO活動に関する情報発信や、ボランティアしたい方としてほしい方のマッチングを行います。

市内のボランティア団体のネットワークづくりも行っています。

判断能力に不安のある方の暮らしや財産を守ります



- 日常生活自立支援事業
- 高齢者・障害者権利擁護事業
- 法人後見事業

障がいや認知症などで判断能力に不安がある方の金銭管理や、成年後見制度に関する相談、申立ての支援を行っています。

在宅福祉サービスでその人らしさを応援します

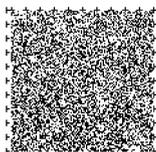


- なごやかヘルプ事業
- 居宅介護支援事業
- デイサービスの支援

ホームヘルパー（なごやかスタッフなど）の派遣や居宅サービス計画の作成などを通して、高齢者や障がいのある方の生活を応援します。

他にもこんな取り組みがあります

- 指定管理施設の運営
（とだがわこどもランド、鯉城学園、総合社会福祉会館）
- 福祉サービス苦情相談センター
- 福祉基金の運営



Vol. 59 今回は…瑞穂区社会福祉協議会

多様な外出ニーズに応える「おでかけ応援ボランティア事業」

地域の助けあい・支えあい活動の一環として、外出に不安や困難がある人を対象に付き添いを行う「おでかけ応援ボランティア」。本事業は令和6年度からの5か年計画「第5次瑞穂区地域福祉活動計画」の重点事業でもあります。誰もが安心しておでかけできる地域を目指して、本事業を支える皆さんに話を聞きました。

通院から趣味・娯楽まで「おでかけしたい」を応援

おでかけ応援ボランティアは、高齢や障がいなどの理由によって一人での外出に不安を感じる人たちのニーズに応えるために誕生しました。利用用途は通院や買い物などさまざま、ボランティアが公共交通機関で同行したり、車で送迎したりしています。瑞穂区社協の通山さんは「介護保険などの制度では対応しきれない余暇の支援も行っていることが特徴で、喫茶店で一緒にモーニングを楽しんだり、地域サロンの送迎を行うケースも。利用者の生活の充実につなげられれば」と話します。

あきらめていた外出が叶った！喜びの声が多数

平成24年の事業開始当初から利用件数は年々増加。コロナ禍で一時的に減少しましたが、現在は回復傾向にあり、昨年は100件近くの活動実績があります。「お気持ちのある皆さんがボランティアを担ってくださるおかげで、『助かっている』『毎日が充実する』など喜びの声が多数寄せられています」と通山さん。中には涙を流して喜んでくださる方もいるそうです。

本事業を支えるボランティア

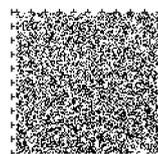
登録しているボランティアは20名ほど。ボランティア歴数十年から始めたばかりの人まで、それぞれが自分のペースで活動しています。自身の介護体験を経てボランティアを始めた方などきっかけは様々です。ボランティアの皆さんは、「直接お礼を言って下さることが嬉しい。お話が困難な方もみえますが、リピートしてもらえることにもやりがいを感じています」と話します。自身の自己管理や健康管理にもつながっているそうです。

気楽なおでかけにも利用してほしい

現状は病院の付き添いが大半を占めていますが、趣味や娯楽などの外出にも利用してほしいといいます。「利用者さんからは『こんなことで頼んでいいのかな？』という心配の声もお聞きます。ボランティアの皆さんとアイデアを出しあい、もっと利用しやすい仕組みをつくっていきたい」と通山さん。



次ページへ続く



ボランティア仲間を 募集中



初めての方でも安心して参加できるよう、「車いすの押し方」などの研修のほか、ボランティア同士の情報共有の場として年に数回の定例会を実施しています。「無理せず自分のできる範囲でOK。利用者さんの笑顔が見られるのがやりがいです！」（ボランティアの皆さん）

お問い合わせ

瑞穂区社会福祉協議会
住所：瑞穂区佐渡町3丁目18番地
TEL：052-841-4063



お話を聞いた瑞穂区社会福祉協議会の通山美帆さん、
ボランティアの兼松久美子さん、
赤堀憲一さん、大脇さよさん、長谷川巖さん

リレートーク

想いをリレートーク 59

社会福祉法人八起社 老人ホーム誠和荘 総括荘長 加藤 仁さん

名古屋市においても、コロナ禍に見舞われてから早5年が経過しました。

言い尽くされてはいますが、この間高齢者施設を取り巻く状況は一変し、世間では5類に移行後も、いまだコロナ前の状況には戻れず、日々対応に苦慮しているところです。

老人ホーム誠和荘は、特別養護老人ホーム、デイサービス事業等の介護保険事業の外、養護老人ホームも一体となって運営しています。コロナ前には、それぞれの入所者は、養護と特養間の往来ができ、日常的に交流ができる開かれた施設でしたが、現在は、行事中心に交流するくらいです。

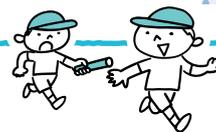
養護老人ホームの入所者は、基本的には身の回りのことはご自身でできる方が対象となっていますが、現実には、要介護・支援認定を受けている方が5割に迫り、その割合は年々上昇している状況で、宿直で対応している職員の負担が課題となっています。

そんな中、本年1月1日には、能登半島地震が発生しました。多くの住民が避難所での生活を余儀なくされる中、高齢者施設も運営できないところもあり、手配された飛行機で、名古屋市を含む愛知県内の施設に避難される方が、大々的に報道されました。

当施設でも、養護老人ホームに2名の方をお迎えし生活されていましたが、現地の復旧とともにこの8月でふるさとに帰られました。約半年間、名古屋でのいい思い出が残れば幸いです。ただ、帰路の手配は家族任せであり、2名の方とも遠い親戚の方が車で送って行かれた様子を見ると、社会全体として、もう少し何らかの手助けはできなかったのかと思うこの頃です。

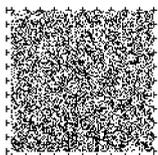


次回は



椋山女学園大学附属
椋山こども園

へバトンタッチ



旬ボラを行く!

活動メンバーと一緒に



ほっと
はあと

01

子どもの『生きる』と向き合う [NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト]

(インタビュー：ねこめい)

『子どもと死』。目を背けたくなるようなこのテーマに、愛知こどもホスピスプロジェクト代表の畑中めぐみさんは長年向き合い、生命を脅かされる状態にある子どもとその家族への支援を続けてきました。現在日本に2つしかないこどもホスピスを愛知に設立することを目指し、活動される理由や思いを伺いました。

●活動を始めたきっかけ

～叶わなかった「治ったらね」～

「ホスピス」と聞くと終末期医療のイメージがあると思いますが、私たちが目指すのは、病気が分かった瞬間から子どもとその家族が使える「心の居場所」です。

当たり前ですが、病院では子どもの命が最優先です。病室で治療中の子ども達は、おうちに帰りたい、外でシャボン玉をしたい、家族とキャンプをしたいといった、「普通の生活」を望んでいます。そんな些細なことが、子ども達の希望となり、日々の治療を頑張っています。しかし「病気が治ったらね」という約束が果たされないまま亡くなることもあり、ある高校生の男の子は「家に帰って、冷房の効いた部屋でアイスコーヒーが飲みたい」という願いを叶えることができず亡くなっていきました。

病気を治すことと、子どもの願いや家族との時間を大切にすること。その両輪を病院の中だけで支えることの難しさに気づき、病気と共に生きる子どもたちが、病気を忘れて「子どもらしく」いられる居場所が必要だと感じたのが、こどもホスピス設立を目指すきっかけです。

●きょうだいと親にも 居場所が必要

子どもが重い病気になると、子どもの家族、とりわけきょうだいもまた大きな影響を受けます。彼らは、習い事を辞めざるを得なかったり、家族との時間が制約される中で孤立感を抱くことが多いのです。こどもホスピスは、きょうだいと同じ立場の仲間と出会い、心のままに遊ぶ中で、自分自身を大事な存在だと気づいたり、信頼できる大人と出会う場を提供できます。

さらに、子どもをお空に見送った親にとって、子

どもを共に見守ってきた家族以外の人、つまりこどもホスピスのスタッフと楽しかった思い出を語り合うことができれば、グリーフケアとなり、心の支えになるかもしれません。私は、家族全体を支える「こどもホスピス」の必要性を強く感じています。

●理想のこどもホスピスは？

～地域の誇りを目指して～

こどもホスピスが目指すのは、単なる医療施設ではありません。そこは、子どもたちが心から「遊ぶ」場所であり、自由で温かい空間です。中高生になれば、友達と泊まれる部屋や、怒りや悲しみをぶつけることができる「火山の部屋」も用意したいと思います。どんな感情も受け入れる、「心の居場所」としての役割を担います。

イギリスでは、こどもホスピスが「地域の誇り」として愛されています。私たちも、地域に根ざし、誰もが支え合える場所を作りたい。そんな思いで活動を続けています。

●読者のみなさんへのメッセージ

こどもホスピスの設立には、多くの皆さんのご寄附が欠かせませんが、目標の1割にも届いていません。しかし、寄附だけではなく、まずは「生命を脅かされる状態にある子どもたちが、お住いの地域にもいる」ということを知っていただきたいのです。日常生活の中では、その存在を感じにくいかもしれませんが、彼らは確かにいます。病気と闘いながらも、子どもらしい瞬間を心から望む子どもとご家族に、居場所を提供することが大人達の使命だと思います。

ぜひ、私たちの活動に関心を持ち、ご支援を検討していただけたら幸いです。子どもたちの笑顔を守るために、皆さんのお力をお貸しください。



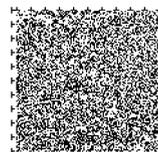
入院中の子どもにガチャガチャをお届け



入院付添中のお母さんにクリスマスプレゼントをお届け

【お問い合わせ】

NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト
Email : hello@achp.jp TEL : 050-5806-2150



きらっと ボランティア・NPOらいぶ



ほっと
はあと

02

趣味のバイクからはじまった、 『虐待防止』というライフワーク [ハーレーサンタCLUB NAGOYA]



いつも胸に
虐待防止啓発の
オレンジ色を。



毎年12月、バイクに乗ったサンタクロースが児童虐待防止の啓発を目的に街を走る活動をしている「ハーレーサンタCLUB NAGOYA」。代表の富田正美さんに、自身の体験と今を語っていただきました。

●長年教育委員会で勤務される中で、活動につながるきっかけがあったのですか？

阪神淡路大震災があったとき、がれきで車での移動が制限される中、大好きなバイクに物資を詰めるだけ積んで被災地に向かいました。支援物資も届かない奥の奥へバイクで向かうと、避難所にもたどり着けなくて困っている人がいて。物資を届けたとき、腰にすがりついて涙を流して喜ばれたんですね。振り返るとそれが転機で、「生きるってこういうことだ」と感じました。そして当時は公務員の仕事を もっとやらなきゃいけないと思ったんです。活動は何度か行きましたが現地では五感で感じるものがあって、現場は大事だなと感じました。

その前年の11月には、西尾市で中学生がいじめで自殺する事件が起きました。教育委員会の窓口担当として関わっていく中、現地に行ったらどうなんだろう、近くなら何かわかるかもしれない、いじめとか不登校の会に顔を出しに行ったんですね。教育委員会の職員としていくので、もちろん先方からは嫌な言葉を浴びせかけられました。ただ、何度も足を運ぶうちに、何人かがお前はちょっと違うな…と言って、「実は…」と話を聞かせてくれて。職場で見ること、報道や学校から聞くことと現地で見ると違えることが改めて分かったんです。当時の教育界では、いじめられた子や不登校の子、こぼれていく子たちにはあまり焦点が当たっていなかったし目が向いていなかったから、僕はそっちに目を向けようと思ったんです。いじめや不登校の会など時間があれば顔を出してつながりを作っていました。都合のいい公私混同ですね(笑)。その結果、僕に相談したり頼ってきて訪ねてくれる人ができました。

●周りが見ていないところに焦点を当てた「虐待防止」

虐められていても学校に行けなくても「この子は何か何とかできる。この子を助けたい」と思っている家には愛がある。ですが、虐待には愛がない。実父、実母からも愛情を受けられない虐待を受けている子どもは一番つらい。その一番つらいであろう虐待をなくしたいと思ったんです。子どもは親を選んで生まれてこれないから。そういう子どもたちにもこの世に生

まれてよかったなと思ってほしいと思って活動のテーマを虐待防止にしようと思いました。

そこから児童養護施設にボランティアとして出かけた。勉強会にも参加したりして、虐待の防止活動はいろんな手段があることが分かりました。

でも、勉強会に来るのは同じ顔触れ。虐待をなくそうと思うとこれから虐待をするかもしれない世代に働きかけが必要だと思ったんです。

ハーレーサンタはそこから始まりました。たくさんの方が自分のお金と時間を使ってクリスマスにサンタクロースがソリの代わりにバイクに乗っているのはおもしろそうだと参加してくれた。そこで虐待の原因や種類などを話して、虐待を受けたことのある当事者にも話をしてもらった。そしたら、泣いて話を聞いてくれる人もいた。SNSで発信するといろんな人が協力してくれるようになりました。

●今後の展望をお聞かせください。

本当に虐待をなくすために啓発から先に進めたいです。望まない妊娠をなくすためには正しい性教育、就学時健診の機会に親御さんに子育ての講座を始めたりしています。そういうのも虐待防止の一つと考えています。そして、子どもも一人の人間であり、人権を持つ存在であることを教えていきたい。虐待は虐待をする親の問題ではなくて、養育能力を持っていなかった親と子を孤立に追い込む社会の問題だと思います。

●読者の方へのメッセージがあれば。

虐待と言えば児童相談所や児童養護施設だけでなく、実は行政や社会的養護に繋がっていない人の方がたくさんいることを知ってほしいし、だからこそ周りに手を差し伸べてほしい。

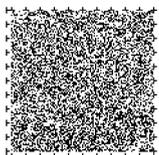
自分なりの算数(四則)があります。足す(助ける)引く(引き受ける)掛ける(声をかける)割る(労わる)です。難しい数学なんてやらなくてもいいからこの4つを大事にして、これで生きていけるといいなと思っています。



↑ たくさんの
賛同者と共に



↑ Xmas TOYRUN
(トイラン)
の様子



【お問い合わせ】

ハーレーサンタCLUB NAGOYA
nagoyatoyrun.iinaa@gmail.com

なごやボウめぐり

プログラムを
実施する
デイケア

ほっと
はあと

03

北区・名古屋ダルクさんって どんなところ???はて?

【依存症・回復支援センター NPO法人名古屋ダルク】

(インタビュー：私の絵日記 ポン)



倉地理事長

炊き出し
ボランティアの様子

●名古屋ダルクとは?

様々な依存の問題を抱える当事者、家族への回復支援に取り組みされている団体で、名古屋北区の地に開設されて今年で35年。ご自身も依存症と向き合ってこられた倉地理事長は、「スタッフは全員当事者で、僕たちは「支援」というより入所者と一緒に回復プログラムをやり続けている。経験を手渡す同じ仲間として、「共に生きている仲間」という感じで活動しています」と、24時間治療的な環境に身を置くことでより早い回復が見込める入所での依存症の回復支援に取り組まれています。

●大事にしているのは「ダルクミーティング」。解決策は「生きやすさ」。

当初から取り組んでおられるプログラムに「ミーティング」があり、毎日実施されています。ミーティングの大原則として「言っぱなし」「聴きっぱなし」で、安心安全な雰囲気の中で話せること。自身の経験の分かち合いをする目的があり、毎日その場を通じて、薬物等に依存することになった人生を振り返る、自分で消化するプログラムを実施されています。このほかにも長年の経験と成果に裏打ちされたプログラムの数々をこなし、依存症からの回復を目指す新しいつながりづくりのホームとお聞きしました。

●何度も繰り返す依存症

「回復プログラムを通じて2～3年をめぐりに卒業を目指していますが、依存症からの回復は数年では不可能で、幼少期からダルクにつながるまでの長い間問題を抱えたまま、薬物など依存行為に頼って生きてきたんです。ダルクに居ながらも再発する人はいるし、卒業してから交流が途絶えて再発する人もいます。僕たちは一生をかけて回復を目指していく、成長を続けていく。依存症は回復をしても終わりはないし、完治はない。いかに健康な生き方を維持できるかを目指しています」と自身の経験も交えて倉地理事長は話されます。

卒業後も交流が持てるよう自助グループでの関わりや、ダルクが行うイベントに声をかけて相談に乗るなどサポートを継続していても、卒業後に再発し離れていくこともあるそう。その場合は「『助けて』と声があがれば助けるし、去る者追わず。できることは、手助けをしてほしい人にしか効果がないんです」助けられないことも現状

としてであると教えてくれました。実際に依存症の方がダルクに繋がる確率は低く、そこから継続して回復していく人も少ないこと、昔より医療の発達で死亡する人は少なくなったもののそれでも亡くなる方も周りにはいると、やるせなさを滲ませておられました。

●医療機関とも連携、ボランティア活動や北区での活動も活発化

現在は医療機関と連携して、通院や入院、医療機関のプログラムに出向いて受けることもあるそうで、精神科の先生にも協力してもらいながら回復を目指しておられます。また、設立当初から支援を受けているカトリック教会が実施している炊き出しや、毎週木曜日には名古屋市内の炊き出しの調理や配食、片付けの手伝いなど、ダルクの外でのボランティア活動にも力を入れておられます。「最近「メンタルネットきた」の精神部会に参加させてもらって、社協さんともつながりができ、活動を知ってもらうことにつながりました。社会とどう交流して、地域の人とどうつながって生きていくのか、関わりの中で学んでいっている感じです」と、ダルクの外でも活発に活動されているお話が伺えました。

●読者へ伝えたい事は?

依存症だったり、そうじゃなくても、一人で悩まないでください。手助けしてくれる人はいるので、助けを求めること。勇気をもって助けを求めてほしいと思っています。

ダルクのことを知ってもらいたいと、ブログやYoutubeでの情報発信に力を入れておられるので、ぜひ名古屋ダルクのホームページを訪ねてみてはいかがでしょうか。



ワークプログラム



名古屋ダルクのパンフレットより
施設生活のポイントと一日の過ごし方



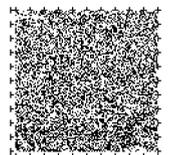
【お問い合わせ】

特定非営利活動法人 名古屋ダルク
電話・FAX：052-915-7284
(平日 9：00～17：30
土祝12：00～17：00)
E-mail：nagoyadarc@yahoo.co.jp



ひとこと ほっとはあと

私は職場までバス通勤です。その日はいつもより乗客が少なく、立っている私の位置から運転手さんと外の様子がよく見えました。外には正装して立っている親子(母・娘・男児)が、じっと運転手さんを見つめ小さく手を振っていました。それに気づいた運転手さんは少し笑みを浮かべ、小さく首を縦に振り、バスは出発しました。その後すぐ、男児の「パパ! パパ!」と連呼する声が聞こえ、私はつい肩をすぼめ、ほほ笑んでしまいました。
(ペンネーム：私の絵日記 ポン)



からだに
優しい

いきいきレシピ



風邪予防は食から！疲労回復にもおすすめ♪

れんこんたっぷりスープ

冬の風邪対策には身体を芯から温めてくれる、旬の根菜類がおすすめです。特にれんこんは免疫機能を高めてくれるビタミンCが多く、風邪予防に役立つと言われていいます。また、食物繊維も豊富で便秘解消も期待できます。

材料 (2人分)

- れんこん……………150g
- 鶏ミンチ……………80g
- 塩……………少々
- 片栗粉……………大さじ1
- 白菜……………1枚
- にんじん……………1/6本
- 水……………300cc
- 鶏ガラスープの素……………小さじ1/3
- しょう油……………小さじ1
- 塩……………少々
- こしょう……………少々
- おろししょうが……………小さじ1/3

- 1 れんこんはよく洗い、汚れたところは削る。ボウルにれんこんを皮ごとすりおろし、ミンチ、塩、片栗粉を加え、よく混ぜる。
- 2 白菜とにんじんを千切りにする。
- 3 鍋に水を入れて沸かしAを加えて、混ぜる。
- 4 白菜、にんじんを加えて、3分ほど弱めの中火で煮る。
- 5 ①をスプーンですくい入れて、浮かんでくるまで煮て、すべて火が通ったら、塩・こしょう(分量外)で味をととのえて出来上がり。

プレゼントつきクイズ

熟語を完成させて、プレゼントをもらおう！

まん中の□に漢字を入れて六つの二字熟語を完成させる穴埋めクイズです。□に入る漢字を組み合わせでできる四文字熟語は何でしょう？

必 月 偏



当 学 間

交 回 外



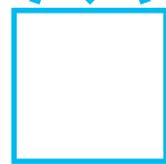
牧 具 説

登 剣 里



頂 車 荘

名 置 動



心 件 理

応募要項

郵便はがきに①問題の答え、②住所、③氏名、④「ふれあい名古屋」本号で興味のある記事と理由、本紙に対するご意見を書いて下記までお送りください。

〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17-1 名古屋市社会福祉協議会「ふれあい名古屋」係

締切は2025年1月6日必着

正解発表

2025年3月号誌上にて発表。正解者の中から抽選で10名様に名古屋市総合社会福祉会館にて展示・販売中の授産施設製品の中から500円相当の品を差し上げます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について

応募いただいた個人情報は賞品の発送および本紙の企画以外に利用したり、第三者には提供しません。いただいたご意見・ご感想の一部を次号の「読者の声」でご紹介させていただきます場合があります。

前回の答え

さんま

①	あ	お	ほ	ろ
②	い	く	り	ん
③	す	び	ん	お
④	ふ		び	ど
⑤	か	い	つ	り
⑥	ま	じ	つ	く

読者の声

前号ふれあい名古屋9月号より

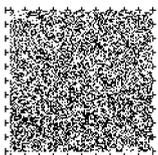
「きらっとボランティア・NPOらいぶ」について

忙しい教師という仕事をしながらNPOを立ち上げた柴山さんのエネルギーに感心しました。地域とつながることはとても大切なことです。この活動が実を結ぶことをお祈りしています、お疲れ様です。

特集「被災地支援」について

能登の被災地を支える社協による災害ボランティアセンターの運営支援の記事、名古屋市社協が一丸となって支援活動を行っていることや情報発信がとても良いと思いました。写真からも様子を伺い知る事が出来、活動が広がることを祈っています。

おたより
ありがとう
ございました



社協からの お知らせ

▶ 鯉城学園 入学生募集！

「高齢者の生きがいつくりと、地域活動の核となる人材の養成」を目的として設立された鯉城学園では、令和7年4月入学生を募集します！

鯉城学園には、幅広い知識を身に付けていただく「共通講座」とICTなど暮らしに係ることや福祉、美術など自分の関心のあることを学ぶことができる8種類の「専攻講座」があります。その他にも、仲間とともに活動する学生会やクラブ活動などもあり、充実した学園ライフを過ごすことができます。

各専攻の募集人数などの詳細は、区役所・支所、区社会福祉協議会、生涯学習センター、図書館などで配布される令和7年度入学案内をご覧ください。また、入学案内の送付をご希望の方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

なお、令和7年度予算の状況によっては、内容が変更になる場合があります。

対象 名古屋市内に住所を有する60歳以上（令和7年4月1日現在）で、地域活動に参加する意欲のある方（ただし、本学園を過去2回卒業した方は除く）

出願期間 令和7年1月10日（金）～令和7年2月10日（月）



学園ライフの風景

お問い合わせ先

名古屋市鯉城学園 〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13号（伏見ライフプラザ内）
TEL：052-222-7521 FAX：052-222-7523

▶ 障害のある人もない人も共に生きる社会をめざして（市民講演会のご案内）

文化を通じた共生社会の実践を目標に活動する「愛Wishプロジェクト」によるダンスパフォーマンスをマリンバの生演奏と共にお届けします。障害のある人もない人も子どもも大人も一緒に踊る愛と希望のダンスから共生社会の実現について考えます。（参加費無料）

日程 令和7年2月15日（土）13：30～15：50

会場 鯉城ホール（中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ5階）
伏見駅南へ徒歩7分

定員 620名（事前申込制、応募多数の場合は抽選）

内容 第1部 基調講演＆トーク
第2部 音楽とダンスの舞台「ひらいてたんぼぼ唄」

申込み 令和7年1月29日（水）必着
・お一人様1回限り、2名まで ・二次元コードまたはハガキから申込
・ハガキの場合は、申込者氏名・郵便番号・住所・電話番号・同伴者氏名・必要な配慮を明記のうえ、下記へ郵送



お問い合わせ先

名古屋市障害者差別相談センター 〒462-8558 名古屋市中区清水4-17-1
TEL：052-856-8181 FAX：052-919-7585

▶ 「認知症とともに“案外楽しく”生きる」認知症当事者の講演会

認知症基本法が施行され、認知症の人を含めた市民一人ひとりが個性と能力を発揮し、人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する社会づくりが推進されています。共生社会実現に向け声をあげる当事者を招き、生活上の工夫や心のありようなどの話を伺い、認知症の人や家族が暮らしやすいまちづくりについて参加者を含め皆で考えます。（参加費無料）

日程 令和7年2月1日（土）13：30～16：30（受付開始13：00）

会場 鯉城ホール（中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ5階）伏見駅南へ徒歩7分

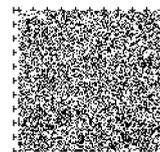
定員 500名（申込不要）※満席の場合、お断りすることがあります

内容 講演「認知症とともに“案外楽しく”生きる」
認知症とともに生きる吉田哲久さん（京都府認知症応援大使）と富代さんご夫妻 等
シンポジウム「当事者がつなぐ希望のリレー」
認知症とともに生きる近藤葉子さん、土赤伸生さん（愛知県認知症希望大使）
市内の若年性認知症の人や家族の交流会参加者 等



お問い合わせ先

名古屋市認知症相談支援センター
〒466-0027 名古屋市昭和区阿由知通3-19 昭和区役所6階
TEL：052-734-7079 FAX：052-734-7199 メール：n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp



ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介

ご寄付ありがとうございました

令和6年7月16日～令和6年10月15日受付分（敬称略、順不同）

福祉基金への寄付

青木 國雄 / 谷元 博樹 / 民生委員児童委員大会募金箱 /
名古屋市社会福祉協議会職員ワンコイン運動
匿名10件

市社会福祉協議会への寄付

株式会社中京銀行 / 匿名1件

なごや・よりどころサポート基金への寄付

匿名1件

市社協サポーター（賛助会員）のご紹介

令和5年度・6年度会員（令和6年10月15日現在）（敬称略・順不同）

仁木 雅子 / 小池 博美 / 株式会社マルワ / 鷲見 修 /
木村 剛 / 株式会社せがわ住機 / タック株式会社 /
富田 哲生 / 三谷 洋一 / 北村 泰幸 /
株式会社サンエネック / 上村 成良 / 永井 瑛資 /
Kのキンバ / 越坂 加絵 / 水谷 轟 /
東洋羽毛東海販売株式会社 / 株式会社ウイングス
石田 栄美子 / 立松 博 / 王 神 / カシワギ電気株式会社 /
竹中 規子 / 船木 陽子 / 株式会社ラングローバル /
株式会社Progress / 匿名8件

ご寄託ありがとうございました

使用済切手・書き損じはがき・ベルマーク・テレホンカード等

令和6年7月16日～令和6年10月15日受付分（敬称略）

（財）まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス / 株式会社 榎屋 / 天白まちづくりサポータークラブ /
地域活動支援センターかけ橋 / 亀島学区連絡協議会 / 三井堂株式会社 / 熊崎 幸江 / 緑区はつらつクラブ /
認定NPO法人すけっとファミリー / 昭興テック株式会社 / 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード /
新富のぞみ保育園 / 高木 玲子 / 平針南民生委員児童委員協議会 / 瑞穂鯨城会 / 瑞穂区弥富学区 / 花ことば

千種・東・北・西・昭和・中村・守山・緑・名東区社会福祉協議会受付分

匿名38件

ご寄託いただいた使用済切手等は、次の団体に送付しました。

団体名	活用方法
認定NPO法人 世界の子どものワクチンを日本委員会	ワクチン支援
公益財団法人 緑の地球防衛基金	中国榆林市東陽山、タンザニア・キリマンジャロでの植林活動

※使用済み切手・書き損じはがき・ベルマークなどの寄付希望がありましたら、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンターまでお届けください。お届けの際は、本広報誌へのお名前掲載の可否及び郵送希望の有無をお知らせください。

※使用済切手の仕分け整理は、「ポストの会」と「なごや北・男ディ倶楽部」「医療法人名北会デイケアSole」の皆様にご協力いただきました。

事務局長のつばやき



今年も残すところ1ヵ月となりました。振り返ってみると、世界各地で争いや分断が広がった1年でした。ネット上では他者を攻撃する発言が目立ち、それに喝采を送る人も増えています。異質なもののや気に入らないものに対して不寛容な風潮が世界的に強まる背景には、気候変動や感染症、物価高騰や経済格差などによる社会への不満や不安の高まりがあるようです。誰もが共に生きることができる「共生社会」の実現のためには、感情に任せて他者を攻撃する前に、一度深呼吸し、苛立ちの根底にあるものを見つめ直すことが必要かもしれません。

名古屋市社会福祉協議会事務局長 柄澤 克彦



ひとに、ひたむきに。
社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会

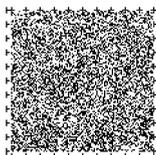
〒462-8558

名古屋市北区清水四丁目17番1号
名古屋市総合社会福祉会館内

TEL 052-911-3192 FAX 052-913-8553

ホームページ：https://www.nagoya-shakyo.jp/

E-mail：nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp



※この広報紙は福祉基金を活用して作成しています。
※この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。
※市内社会福祉施設、民生委員・児童委員、大学などへの配布及び公共施設に配架しています。
広報紙「ふれあい名古屋No.147」
発行日：令和6年12月1日 発行部数：13,000部